

## 大木火走神社の担いダンジリ祭り

世界への玄関口である関西国際空港をもつ泉佐野市は、海と山に囲まれた自然が豊かに残るところです。そして、歴史や伝統・文化がひっそり、そしてしっかりと根付いてきた土地柄でもあります。今回はその伝統・文化の中から、大木火走神社の秋祭りで行われる担いダンジリ祭りについて、ご紹介したいと思います。

ダンジリ祭りといえば、全国的に有名な岸和田をはじめ、泉州地域では各神社を中心に行われる秋の風物詩となっています。現在泉佐野市では19基のダンジリ・やぐらと呼ばれる山車が活躍しています。

大木火走神社の担いダンジリ祭りは、火走神社にその年の収穫を感謝し、豊作を祝う祭りです。祭りの起源そのものについては良くわかりませんが、大正～昭和初期には賑やかに祭りが行われていたようで、ダンジリ同士をぶつけ合い、「喧嘩まつり」と呼ばれるほどの勢いある祭りだったようです。しかし、次第に姿を消していってしまいました。それが、昭和61年に地元役員の熱心な働きもあって復活し、大木火走神社の秋祭りでは、現在3台の担いダンジリによって巡行が行われています。

担いダンジリの写真の足元を良く見てください。



巡行する担いダンジリ

火走神社への宮入り



お囃子を披露する子どもたち

皆さんの良く知っているダンジリとどこか違っていませんか？このダンジリは文字通り、曳行するのではなく「担う」、つまりダンジリを人間の肩に担いで宮入りするのです。この「担いダンジリ」も以前は泉州でも数多く見られたそうですが、現在他の地域では廃れてしまい、近辺ではこの大木火走神社の秋祭りで見られなくなってしまいました。

一方で、祭りの際に奏でられるお囃子は、大木の地元の大人から子どもたちへと口伝によって伝えられ、郷土芸能の継承にも一役買っています。この担いダンジリはただ単に珍しいというだけでなく、祭りを中心に、地域住民が結束力を深め、大木地域全体の活性化へと繋がっているのです。また、この祭りの行われる火走神社は、国史跡日根荘遺跡の一部でもあり、泉佐野市の歴史を語る上でも重要な地域でもあるのです。

皆さんもぜひ来年の秋には、勇壮な大木火走神社の担いダンジリ祭りを観に来てください。

### ● お問い合わせ先 ●

泉佐野市市長公室政策推進課

TEL：06-463-1212

FAX：06-464-9314